

おおむら・たくや

1982年生まれ。写真家。  
大学で土木を専攻。卒業後、写真撮影に針路をとる。大学4年間で苦勞して修めた構造力学の知識を生かして、雑誌取材を中心に土木の施工を撮影している。

[撮影地]香川県丸亀市 飯野山山頂

© OMURA Takuya

登山口から見上げた青空は、いつしか雨雲に変わり、小雨がぱらつき出した。8台目から北向きに一望できるはずの瀬戸大橋は、日が差しているのにもかかわらず、フィルターをかけたように薄暗く霞んでいる。

讃岐富士とも呼ばれる円錐形の飯野山は、雲の中に完全に閉ざされてしまったようだ。時がたてば、少しは雲が取れるだろう。撮影を半ばあきらめ、山頂を目指した。

暗雲が垂れ込めるなかたどり着いた山頂の見晴台で、私は目を疑った。

雲の切れ間から差し込んだ光が大地をモノトーンに浮かび上がらせている。そこに広がっていたのは、いくつものため池だった。ため池の大きさとは対照的に、河川敷に広がる野球グラウンドの隅で、細々と土器川が蛇行している。この地域の雨の少なさを象徴するかのような光景だ。

瀬戸内海周辺の平野部ならば、どこでも目にするため池。しかし、歴史や役割のわりに二つひとつの存在は、いたって地味だ。想定外の恵みの雨は、ランドマークばかりを探す私に対して、地域の風景に溶け込んだ土木構造物の在り処を気づかせるためのものだったのかもしれない。